中京NEWS No.183

令和 6年 5月 2日

発行所：中京山岳会　編集人：織田善夫
事務所：　一宮市明地森下 27　酒井 方
〒494-0012　☎ 0586-68-0606

月例山行　竜頭山 753m　4月 28 日

市橋、伴野、柴橋、水谷

▲ゴールデンウィーク２日目の日曜日。渋滞もなく、奥三河、鳴沢苑の駐車場に到着。8:30 に駐車場を出発。8:40 登山口から登坂開始。沢沿いを 100m ほど行き、沢を渡渉したところからいきなり急登となって 10 分もすると汗が噴き出してくる。小竜頭への分岐まで数回の小休止をしながら急坂を登り切り、ほっと一息。竜頭山山頂には 10:35 に到着した。

▲山頂はちょっとした広場になっているが周囲を背の高い木々に囲まれていて展望がきかない。小休止もそこそこに大竜頭へと向かう。急坂を下り切ると目の前に垂直の岸壁が出現。岸壁の左手から両手両足をフル活用しての厳しい登坂をクリアし 10:50 に大竜頭に到着。

▲ここも立木に邪魔されて眺望がきかないため「この先危険」と書かれた看板の先へと意を決して下り、「滑落死亡事故現場」の看板の先でようやく視界が開け、しばし三河山々の眺望を楽しむ。大竜頭に戻り、昼食休憩を取ったのち、小竜頭の分岐まで引き返す。

　小竜頭へは 12:30 に到着。記念撮影の後、下山を開始。13:50 無事に駐車場へ帰着。おまけで鳴沢の滝を見学し帰路に就いた。

▲リーダーの中村さんが体調不良のため山行断念となってしまったのは残念であったが、天候に恵まれた楽しい山行であった。

――記録：柴橋

災害時のサバイバル術
幕営山行は、災害時にも役立つ！

▲国の内外で災害が多発しています。自然災害は、広大な被災地域と復旧・復興までの長い期間、不自由な避難生活を強いられます。避難生活の基本は**衣食住**です。

▲長期にわたる山のテント生活は、慣れと我慢・耐力と創意工夫、それが生き残るための必須条件です。**生活技術**と言われます。ザックで荷揚げしたものがすべて、その条件下で生き延び、そのうえで初めて山へ登る。心身のたくましさが要求されます。テント、シュラ-フザック、コンロ、コッフェル、食器、etc。不要なものは何一つない必需品ばかりです。これらの装備を使いこなして、生き残るのです。真のヤマヤは、災害にも強い！ ― 織田

ザイル祭

６月３・４日（月・火）伊勢谷小屋

シュラーフザック 持参です！

コロナ後　初の山小屋、自炊・泊付きです。

水野孝二さん退会

令和２年８月入会～６年３月末　在籍３年余